

## 香取遺産



## vol.196 津宮の参詣道

さんけいみち

津宮地区は利根川の南岸、香取神宮の北に位置します。江戸時代以前は北に香取の海を臨み、香取の海から香取神宮に向かう際は、津宮を経由するため、古くからの要衝でした。江戸時代に香取の海の干拓が進み、利根川が現在のように東流する頃になると、香取神宮への参詣が盛んになり、津宮は参詣と水運の往来でにぎわう宿場の役割を担いました。参詣道の起点である大鳥居と、周囲の宿場の景観が往時の趣を見せています。

参詣道を香取神宮に向かうと、根本川の東西に北面した二つの神社が見えてきます。東側は忍男神社(東の宮)、西側は臆男神社(西の宮)です。両社は浜辺を守護する神社として鎮座し、臆男神社は貞観2(860)年から祭られていると伝えられます。さらに参詣道を進むと、根本川に「じょんぬき橋」と呼ばれる小橋が掛かっています。董橋が正式な名称で「じょんぬき」とは「草履脱ぎ」が転じた言葉です。香取神宮の神事の際に、朝廷からの使者がこの橋の手前で馬から降りて、履物を脱ぎました。また、根本川は参詣に当たり身を清める場所でもありました。

## ▲忍男神社 ▲臆男神社

◀じょんぬき橋

近代になり、佐原から銚子市方面へ鉄道を延長する計画が組まれます。大正12年に香取神宮から政府へ津宮地区に駅の設置要望があり、昭和6年に香取駅が設置されます。主要な移動手段が、船から鉄道や自動車に移り変わると、次第に大鳥居からじょんぬき橋までの参詣道は使われなくなってきました。

津宮地区には歴史的な由緒を持つ場所が多く存在しています。折を見て散策してみたいかがでしょうか。



図 生涯学習課

☎(50)1224